



モスタル市内で開催されたUNDOKAIでの小学校低学年による玉入れの様子



ボスニア・ヘルツェゴビナ スポーツ教育を通じた信頼醸成プロジェクト

2016年11月～2019年10月

1995年12月の Dayton 合意により紛争が終結したボスニア・ヘルツェゴビナにおいては、今日でも依然として中央政府のもとに、ムスリム系・クロアチア系住民が中心の「ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦」およびセルビア系住民が中心の「スルブスカ共和国」という2つの行政主体が存在する状態が続いています。

それぞれの行政主体には独自の大統領、政府が存在し、独自の司法、教育等の国家制度を有しており、国内統合は進んでいません。さらに教育分野においては、各民族が異なる教育カリキュラムを採用しており、それが国民の一体性及び民族間の相互理解を阻害する大きな要因の一つともなっています。

本案件は、国内のターゲット小学校において、保健体育教科の「共通コア・カリキュラム（以下、「CCC」）」の作成・導入支援を通じてその定着を図るとともに、モスタル市スポーツ協会を対象に、社会的包摂性・多様性・公正性に配慮したスポーツ事業実施能力の強化により、社会的包摂性・多様性・公正性に配慮したスポーツ教育の意義がボスニア国内で認知されることを目指しています。

～活動や目指す成果～

保健体育CCCの作成

社会的包摂性・多様性・公正性に配慮した保健体育CCCが、ボスニア・ヘルツェゴビナ国内の関係者参加のもとに作成されます。

保健体育CCCの導入

ボスニア・ヘルツェゴビナのターゲット小学校において、保健体育CCCが試行的に導入されます。

スポーツイベントの実施

モスタル市スポーツ協会が、社会的包摂性・多様性・公正性に配慮したイベントを実施します。